

# 赤羽根中学校 1年生のみんなへ！

コロナウイルス感染症が広がる中、学校の再開がまた延期されることになりました…。みなさんは元気になっていますか？すぐにはいつもの学校生活にもどることは難しいとは思いますが、**早くみんなと勉強したり、おしゃべりしたり、行事をすることを楽しみにしています！しかし！それも健康な身体があってこそ！** 感染予防に注意を払って、生活を送り、またみんなと一緒に学校でいろんな経験をしていく日々を楽しみにしています！

さて、5月12日には学校からみなさんに電話をかけさせていただきました。**学習を進めている人、朝早起きしてジョギングをする人、家のお手伝いをしている人、自分の趣味に時間をかけている人**が多くいました。また、ちょっと心配なこととして、**生活リズムが乱れてしまっている人**もいるようです。長期休暇に入ると、どうしてもリズムが乱れてしまいますよね。私も何度も経験があります…。生活リズムが乱れている…という人は、**少しずつ学校のリズムに戻すよう、心がけましょう！** そのために！どうしたらいいかという簡単な方法があるそうです！それは、**朝起きて太陽の光を浴びること！** だそうです。詳しくは次のURLに書いてあるので興味のある人はチェックしてみてください！（神崎先生の知識じゃないんかい！というツッコミが聞こえそうですが…泣）<https://partstten.com/sunshine/>

それでは再会の日を楽しみにしています！次ページからは各先生が中学校時代に頑張っていたこと②を掲載しているので今後の学校生活の参考にしてください！

1年学年主任 神崎朋見

## 池田先生

私が中学校時代に頑張ったことは「ノートをキレイにとる」ということです。そのきっかけは、私が中学校1年生の時、初めて定期テストを控え、勉強をしているときでした。問題を解いていると、わからない問題に遭遇。あっ、これって授業で…と思った私はノートを開きました。そして、私の知りたいことが書かれている場所を探す旅にでることになりました…。長旅を終えた私は書いてあるものをすぐに探すことができれば無駄な時間を使わなくて済んだのに…と後悔しました。そして「ノートをキレイにとる」ことの大切さに気がつきました。

ノートのきれいな友達のを参考にし、少しずつノートを整えていくと一つの発見がありました。ノートをキレイに整えることで授業内容が頭の中で整理でき、理解が深まりました。特にテスト勉強中にそれを実感しました。また、ノートをキレイに書くことで、先生からクラスの掲示物作成を頼まれたりして、掲示物を作るうちに美術への興味がでてきたりと、頑張ったことで自分の生活の幅が大きく広がったことはとてもよかったなと思っています！

## 金山先生

私は「みんなと笑顔で卒業する」ということを意識して中学校生活を過ごしました。中学校入学前に先輩から中学校がどんなところか？というお話を聞く機会がありました。その中で私の心に強く残った言葉が「中学校はとても楽しかったよ。なんでそう思えたかという、学校生活は良いことばかりではないけど、どんなことにも前向きに取り組む友達がいて、その子のおかげで勇気づけられたり、楽しませてもらったりしたからかな。」というもの。私はそれを聞いて、友達や仲間ってとても大切なんだなあ、と思いました。そこで中学校に入学するにあたって私は先輩の友達のように、自分の周りの人を元気にする存在になりたいと思いました。そして、みんなと笑顔で卒業できたらサイコー！と思い、それを目標にしました。

すべてがうまくいったわけではありませんし、私が逆に勇気づけられたりもありましたが、周りの仲間のことを考えながら、自分なりに答えを出して行動したことはとてもいい経験になりました。卒業式では「笑顔」というよりは「涙」の卒業式でしたが、その涙も、クラスや学年全体が充実した楽しい学校生活を送ることができたからだと思います。ぜひ、みなさんも最高の卒業式を迎えるために自分なりに頑張れることを見つけてもらえればと思います。

## 瀬口先生

私は小さいころから野山を走りまわることが大好きでした。身体を動かすことが大好きな私は、小学生になりサッカーを始めました。サッカーを通じて体を動かす楽しさだけではなく、個人として、チームとして努力を重ねることや仲間と協力することの大切さを学びました。そこで、中学入学にあたり、多くを教えてくれたサッカーを続けるために、部活を頑張ろうと決めました。

部活を頑張ったおかげで一番身についたことは、「人の動きをよく見る」ということです。プレーはもちろんのこと、部活動は集団生活ですから、チームが良い環境で効率よく練習するために周りをよく見るのが大切です。人の動きや状況を見ることで、自分がどうするべきかがわかります。しかし、中1の私はそのことをよくわかっておらず、私の考えを変える事件が起きました。

ある日、いつものように荷物をその辺において個人練習に取り組んでいました。その姿をみた顧問の先生が私を呼びました。先生は「いつも練習に来てすぐにシュート打つのはとてもいいことだけど、ちょっと考えてほしい。君の荷物はどうなってる？」とおっしゃられました。私が自分の荷物に目を向けると、先輩が他の人の邪魔にならないように他の場所へ移動をしてくれていました。私は自分のことだけを考えていた…と反省をしました。

先生に注意をされた後、よくよく周りの動きを見てみると、先輩がグラウンドの準備や荷物の整備を率先してやっていることに気がつきました。人の動きを見ることで、自分がなにをしなければいけないか気づき、動くようになりしました。このことはチームの環境をよくするだけではなく、他の人のプレーを見る目にもつながり、技

術の向上にも役立ちました。

部活動を適当にやっていたら私はそのことに気付かなかったと思います。「人の動きをよく見る」このことは中学を卒業して何十年たっても大切な学びとして今も残っています。

岩田先生

「気になったことはトコトン調べる」ということを心がけていました。中学校に入学する前、小学校に比べて教科が増えることを知り、知りたいこともたくさんありそうだなあ…と思ったことがきっかけです。そして中1になったある日、中3の先輩が謎の機械を持ち帰る姿を下校中に見かけました。「気になったことはトコトン調べる」ことを心に決めていた私は勇気をふりしぼって、先輩に声をかけると、その謎の機械は「ラジオ」でした。当時の私にラジオは珍しく、私はラジオへの興味が止まりませんでした。とはいえ、親にラジオを買ってほしいというのも気が引け、先輩にラジオを借りればいい、と思って先輩の家へ押しかけ「ラジオをかしてください。」と頼みました。すると先輩が「3年生になったら技術の時間で作れるよ。」と教えてくれました。

3年になれば…と喜びで胸がいっぱいになったのですが、ラジオへの思いが止まらない私は、「気になったことはトコトン調べる」の言葉通り、本屋や図書館へ行きラジオの作り方を調べました。すると、3年生になるまで待たなくても、お小遣いとお年玉を使って部品を揃えれば自分で作ることができる…と気づき、当時電気街だった秋葉原に通い、少しずつ部品を集め、失敗を重ねながら、ついにラジオを完成させることができました。自作ラジオから初めて流れてきた音を今でも昨日のこのように覚えています。3年になり、授業でラジオを作るときには先生にかわってアドバイスをおくり、教えることの楽しさを覚えました。これらの経験をきっかけに、機械に興味を持った私はその後、機械の道に進むことになりました。中学校時代に「気になったことはトコトン調べる」と決めて実行したことが今の技術科の教師としての自分につながっていると思います。

以上先生方の中学校時代に頑張っていたことでした！自分が頑張りたいことを見つけて、学校が始まったら積極的に取り組んでみよう！